



7月2日に、久保寺トメさんが100歳の誕生日を迎えられ、町長がご自宅へお祝いに訪問しました。お祝いの花束が町長から手渡されると、トメさんは笑顔で受け取られていました。

100歳という節目を迎え、気持ちも新たに101歳に向けて、今夏の暑さにも負けず、元気に過ごしたいと、お話しされていました。

トメさんが生まれた大正3年(1914年)は東京駅が開業し、夏目漱石の『こゝろ』が出版された年です。

久保寺 トメさん 大正3年7月2日生



我ら松田人③

このコーナーは町内の人物や団体を取り上げていく不定期連載です。第三回目の今回は六夜会(ろくやかい)会長の川本光一さんにお話を伺いました。

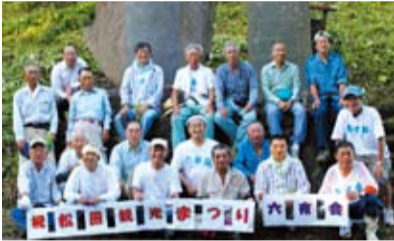
その日松田山は赤く染まる

六夜会とは、まつだ観光まつりの夜、松田山に「百八ツ火(ひやくはつて)」と呼ばれる火を灯し、祭りの夜を彩る団体です。

今年で37回を迎えるまつだ観光まつりですが、元々は毎年8月26日に開催されていた二十六夜祭が前身とされています。二十六夜祭では、百八ツ火を主役とし、盆踊り大会も行われていました。

まつだ観光まつりで百八ツ火を披露するには不断の努力が必要です。かつてはヒューム管(コンクリートでできた土管のようなもの)に木くずをいれて火をつけていましたが、平成2年頃からは現在のように鋳物の鍋に燃料を入れ、火をつけるようになりました。その鍋も、祭り終了後すぐにスス落としをし、ペンキで色を塗るなどの保護をしないとすぐに傷んでしまいます。六夜会の活動は祭り終了後、すぐに始まるのです。

かつては140人程いた会員も現在は53人となつてしまい、さらには高齢化の波も押し寄せています。それでも火を灯し続けるのは祭り会場で聞こえるどよめきと「今年もちゃんとついたね」といった皆さんの声です。川本会長はかつて松田中学校が祭り会場だった時に灯火台を設置したため、今の河原の会場からは百八ツ火がよく見えないので、今年は工夫して見えるようにしたいとも語っておられました。今年の夏、松田山を彩る灯火はいつもと違う輝きを放っているかもしれません。



六夜会のメンバー。松田山の草刈りや清掃作業も会の大切な活動です。



カメラレポート

銀行強盗初動対応訓練



←銀行強盗初動対応訓練の様子。銀行強盗役の迫真の演技で行内は緊迫した雰囲気

警察の迅速な動きでご用となった銀行強盗 →

6月26日(木)、横浜銀行松田支店において強盗致傷事件初動対応訓練が実施されました。この訓練は刃物所持の犯人役の松田警察署署員が銀行員から現金を強奪後、警察官により連行されるまでの一連の動きを行った訓練で、緊迫した雰囲気の中で取り組まれました。

北海道東神楽町長が来町



本山町長と握手をする山本東神楽町長(写真左)

6月17日(火)、チャレンジデーの対戦相手だった東神楽町の山本進町長が来町されました。山本町長は本山町長とチャレンジデーでの健闘をたたえ合った後、ハーブフェスティバルを視察され、ハーブについての説明を熱心に聞いていらっしゃいました。

夏至の集い

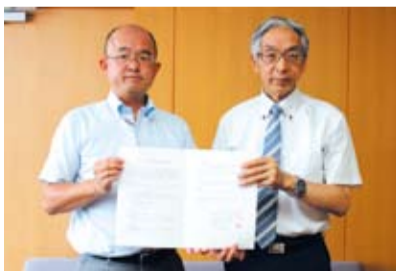


↓みんなで手拍子。中南米のリズム音楽の様子。

↑上手に作れたかな？  
ロウソク作り

6月21日(土)、子どもの館で夏至の集いが開催されました。溶かしたロウにクレヨンで色を付け、手で形を作るオリジナルロウソクや、ピアノやボンゴのリズムに合わせて手拍子を行う中南米の音楽を楽しみました。

防災協定締結



←協定を締結した本山町長と宮脇代表取締役社長(写真右)

(株)小田原エンジニアリングの敷地内に消火栓を設置していただき、付近の消防力の強化が図られました。 →

7月3日(木)、町は(株)小田原エンジニアリングと防災協定を締結しました。この協定により、災害発生時に町公共施設での町民や町内在勤者の受け入れができなくなった場合、町からの要請により、(株)小田原エンジニアリングの会社施設への一時避難と一部の施設利用ができるよう協力していただけることとなりました。

社会を明るくする運動



広報まつだ7月号の「我ら松田人」のコーナーでお知らせしましたとおり、7月8日(火)に松田町更生保護女性会と保護司の方が、今年で64回目を迎える社会を明るくする運動を実施し、非行防止の啓発活動としてチラシ配りを行いました。

松田のホタル



町にはホタルが生息している場所がいくつかあります。これも松田の水が昔と変わらずきれいであるためです。しかし、近年、ホタルの数は減少しています。町のホタルの減少を抑え、ホタルを増やすためにもきれいな水と大切な自然を守っていきましょう。